

## 着任の 挨拶

## 地域連携センター 統括部長あいさつ



地域連携センター  
統括部長

井上 正晴

本年度より地域連携センター統括部長に就任しました井上正晴です。  
平素より、当院との医療連携にご理解とご協力をいただきありがとうございます。これまで多くの先生方に連携登録医として患者さんのご紹介や、地域連携研修会の参加など誠に感謝しております。

さて、当院の「地域連携センター」も名称変更されて4年目になります。高齢化社会に対応するため医療の機能分担が必要となり、平成16年一人の看護師長で医療連携科が設立されました。その後次第に拡張され、平成24年には医療連携科、保健指導科（退院・在宅支援）、医療福祉相談科が統合し「地域連携・福祉支援科」となり、「地域連携センター」が開設され、現在職員は11人となりました。

本年度は山梨県だけが認定病院がない地域医療支援病院の要件をクリアし、承認の取得を目指しております。これまで以上にスムーズな紹介患者さんの受け入れ、逆紹介の推進や共同病床の検討などすすめていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 地域連携・福祉支援科 部長あいさつ

今年度、地域医療連携・福祉支援科部長に着任いたしました古屋一茂と申します。日頃より当院との医療連携にご協力いただき感謝申し上げます。

昨今の複雑化した医療情勢のなかで、病院、診療所、介護、福祉、行政などに合わせた医療連携を行うことは、役割を分担するだけではなく、医療の最適化と効率化を図ることが可能となり、社会に対する医療貢献につながる重要なことだと考えます。

当院は県の基幹病院として各診療分野における高度専門医療とともに救急医療、がん診療、周産期医療など多様な症例に対して質の高い医療提供を心がけ、日々診療を行っています。しかし医療は急性期だけで完結するものではありません。足りないところは補い合うことで、当院ではなく地域で完結できるケースも少なくないと考えます。

地域医療連携、退院・在宅支援、医療福祉相談の中心三業務を地域連携センターで相互的かつ有機的に執り行い、患者さんに遅滞なく適切な医療を提供できるよう努めてまいります。当院と連携をお取りいただく際の窓口として、地域連携センターをこれからも有効にご利用していただけるよう、医療連携・福祉支援科スタッフ一同、一層努力して参りたいと存じますので、宜しくお願い申し上げます。



地域医療連携・  
福祉支援課 部長

古屋 一茂



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

地域連携センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1  
TEL.055-253-7111/FAX. (直通) 055-253-2903

## Topics 総合診療・ 感染症センター の紹介

総合診療科・感染症科・女性専門科からなる

# 総合診療部門誕生！

comprehensive medical care

CHECK  
1

## 迷える患者さんのために



総合診療・感染症センター  
統括部長

神宮寺 禎巳

初めて当院を訪れる患者さんは、最初に「総合受付」へ寄られます。中には、複数の漠然とした症状を抱えて来院される方もおられ、「さてどこの科に行っていただくか」と判断に迷ってしまいます。患者さんはよく言われます。「この病院は専門医が揃っていて何でも診てもらえるから来たのです。」と。そして総合受付に立つ者は思います。「迷える患者さんのため、総合的に診察し、的確な診断をくだし、最も適した専門診療科に繋げることのできる医師が居てくれないものか。」と。

この度、総合診療科、感染症科、女性専門科からなる、待望の病院総合診療部門が誕生いたしました。同部門が、各専門診療科への水先案内人となり、専門診療科の山々の谷間に落ちかけた患者さんを救い上げ、時には院内各専門診療科というオーケストラの指揮者となって、その存在意義が十分発揮できますよう、関係者一同鋭意頑張って参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

## 何科に紹介すればよいか迷ったらまず当センターへ



総合診療・感染症センター  
センター長

井上 潤一

「当院はこれまで各科の高度専門医療と救命救急センターを2本の柱に先生方と連携してまいりました。一方急速な社会の高齢化に伴い複数の疾患を併せ持つ患者さんや基礎疾患に肺炎をはじめとしたなんらかの感染症を合併する患者さんが増加しており、ご紹介いただく際困られたこともあったのではないのでしょうか？そこで当院では4月からそのような患者さんを診療する「総合診療・感染症センター」を連携の第3の柱として開設いたしました。スタッフには総合診療と感染症に関する気鋭の三河医師を配し、従来の女性専門外来と合わせ、疾患別ではなく患者さんを“まるごと”みさせていただく体制をとっております。また三河医師は感染症のスペシャリストでもありデング熱、エボラ出血熱、新型インフルエンザといった疾患にも精通しております。何科に紹介すればよいか迷われた場合は、ぜひ総合診療・感染症センターにご紹介ください。よろしくお願い申し上げます。

総合診療科・感染症科  
副部長

三河 貴裕



副部長

三河 貴裕

みなさま、初めまして。山梨県立中央病院に総合診療・感染症科医として赴任しました、三河貴裕と申します。当科は各専門診療科のサポートの元、月曜日から金曜日の午前外来および内科系二次救急初療に当たっております。一般的な総合診療科の診療内容は、大きく分けて家庭医(クリニック中心で予防医療にも関わる)と病院総合診療の二つに分かれます。当院の総合診療は病院総合診療であり、外来／救急初療、入院加療、外来フォローを行います。必要に応じて各専門診療科医師にご助言をいただきながら、どのような患者さんでも診療させていただきます。前任地である亀田総合病院では総合診療科、腫瘍内科(固形腫瘍全般)、感染症科の専門研修を受けて参りました。熱源不明患者、海外渡航、ワクチン、腫瘍疾患検索、治療についてもなにかお手伝いできることがありましたら、いつでもご連絡ください。前任地では地域医療連携室長を兼任しておりました。急性期病院、療養型病院、クリニック、老健、訪問看護ステーションへの訪問を繰り返した結果、顔の見える関係を作ることの重要性を学んでまいりました。地域医療機関の先生方や医療関係者の皆様と、一人の患者さん(あるいは住民)を中心とした、連続性のある医療・介護・福祉を提供するお手伝いができたらと考えております。今後山梨県内で総合診療医育成の動きが加速していきます。県民の皆様にも最善の医療を提供できるよう、その一翼を担う若い人材の育成にも力を注いでいく所存です。

CHECK  
2

## 設立から10年目を迎えた今年度、 総合診療・感染症センターにおいて「女性専門科」として活動開始

性差医療の実践の場として女性に多い疾患の治療、月経・産後・更年期など女性ホルモンとの関連や仕事・子育て・介護などのライフイベントを考慮した診療を提供する外来として開設され、本年3月で10年を迎えました。診療時間を確保し、ゆっくり話を聞きながら適切な治療、方向づけをする外来です。受診者の約1割は器質性疾患で、甲状腺機能異常、副甲状腺機能異常、クッシング症候群など内分泌疾患や強皮症、クレスト症候群など膠原病、膵臓癌、大腸癌、子宮癌など悪性疾患の方などです。当科は複数の科にまたがる症状を訴えやすいという特徴があり、多彩な症状の内分泌疾患や膠原病の診断につながると考えています。どこへ行ったらいいのかわからない女性たちの受け皿として、女性の総合診療科的な役割を果たしてきました。4月からは総合診療・感染症センターにおいて、総合診療科・感染症科とともに女性専門科として活動してまいります。今後ともご指導・連携のほどよろしくお願いいたします。



女性専門科  
副部長

縄田 昌子



# 地域連携研修会が開催されました

## 地域連携 研修会

H26 年度 第4回

2015.3.13



研修会の情報はホームページでもご案内しています。併せてご覧ください。

<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>

平成27年3月13日(金)、当院多目的ホールにおいて、今年度第4回目の地域連携研修会を開催しました。

当院循環器内科科長梅谷健医師が、「循環器病疾患の病診連携を考える～かかりつけ医の推進にむけて～」と題して講演し、院外より23名の医師、看護師、相談員等が、院内からは24名の職員が出席しました。

当院循環器内科の紹介数・逆紹介数、手術・診療実績などの報告があり、現状と問題点についての講演を行いました。

また、今後の課題として病診連携をどのように進めていくかという点が挙げられ、医療連携パスについてのアンケートを行った結果、多くのクリニックの先生方から医療連携パスが必要、パスを導入した場合に参加可能という回答をいただきました。この結果を踏まえ、医療連携パスの構築や病診連携の充実に力を入れていきたいと思います。

当地域連携センターでは院内・院外に向けた連携のための研修会を今後も定期的に行うと考えております。その都度ご案内させていただきますので、ぜひご参加ください。

## 次回研修会

H27 年度 第2回

日時：H27年 5月29日(金)／19:30～20:30

場所：山梨県立中央病院 2F 多目的ホール

甲府市富士見1-1-1 055-253-711

座 長：山梨県立中央病院

リウマチ・膠原病科 副部長 神崎 健仁 医師

題名：『関節リウマチの薬物治療  
～DMARDsからバイオ製剤まで～』

講師：帝京平成大学 健康メディカル学部 教授  
JCHO湯河原病院 リウマチ科 客員部長

科長 仲村 一郎 医師

## 紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、かかりつけ医によるFAX予約ができます。

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。

体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

電話予約の流れ

1

### かかりつけの 医院を受診

紹介状をもらってください

2

### 専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00～17:00 月～金(祝祭日除く)

①紹介状 ②電話診療予約申込書  
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に  
準備して  
ください

3

### 受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書  
③保険証 ④当院の診察券  
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)